

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 220

2023・07・26

蓮の香や水をはなるる茎二寸

— 蕪村 —

梅雨明けを待っていたかのように
夏休みが始まりました。
海の家や建ち並ぶ海岸辺りは、
昨年より更に
賑わいが戻ってきている感じです。
鎌倉の夏。
花火大会も
早く戻ってきますように！

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 鎌倉市の図書館はどのように整備されるのか？	…1
☆ 第3回連続講座参加報告	…2
☆ 第4回連続講座参加報告	清水順子 …3
☆ 第5回連続講座参加報告	森下芳則 …4
☆ 連続講座アンケートによせられたご感想・ご意見など	…5
☆ 市庁舎移転で図書館は規模縮小、サービス低下か	…6
☆ 五十嵐廣雄さん追悼	
☆ 松坡先生をめぐる人々 13 島田日雅	袴田潤一 …7
☆ 図書館友の会全国連絡会総会に参加しました	…8
☆ 図友連シンポジウム報告	
☆ 図書館友の会全国連絡会 要請活動報告	…9
☆ 活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟合同総会傍聴報告	
☆ F☆L実行委員会報告/本の海サポーターズ交流会/銀幕情報	…10
☆ ポラ協報告・協働部会報告 /活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



連続講座（全5回）終了！ そして 第13回鎌倉市本庁舎等整備委員会の傍聴へ 鎌倉市の図書館はどのように整備されるのか？

4月から始めた連続講座「これからの鎌倉の図書館にのぞむこと～公共図書館の存在意義を確認し、共有し、これからの図書館を構想する～」が7月9日の第5回をもって終了しました。市民、職員、議員、研究者、協議会委員、NPO 仲間など、様々な立場の皆さんと共に聴講し、見学し、語り合うことができました。中央図書館は昭和49(1974)年、深沢図書館は昭和55(1980)年開館の、どちらも年季の入った建築物ですので、市民の学ぶ権利や知る自由を保障するためにも、鎌倉ならではの貴重な郷土資料を後世に繋いでいくためにも、本庁舎移転の有無を問わず新整備は不可欠と確信しました。そんな気持ちを抱いて、7月11日に行われた「第13回鎌倉市本庁舎等整備委員会」を傍聴しました。各委員さんから発せられたご質問やご意見は図書館に関するものが多く、どれも重要なご指摘でした。事務局の説明では、8月上旬ころ各委員宛に「中間とりまとめ」が送られるとのことでしたが、その作成にあたってはこの度の委員会討議が十二分に活かされることと期待します。

当会では、連続講座の成果をもとにまとめた「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言書(案)」(添付資料①)に皆様からのご意見やご提案を頂いた後、完成稿を市に提出する予定です。大きな金額が投入される市民の庁舎であり、図書館です。「急いては事を仕損じる」ことのないよう、熟議の上にも熟議を重ねて、市民への説明責任もしっかりと果たして頂いた上での計画になるよう願います。最後になりましたが、連続講座において多くの示唆を頂きました森下芳則様、太田剛様、西河内靖泰様、渡邊浩平様、吉田右子様にご挨拶申し上げます。

(阿曾)

第3回連続講座「障害者サービスからはじまる公共図書館のかたちとは？ ～読書バリアフリー法の具現化にむけて～」参加報告

講師：西河内靖泰^{にしこうちやすひろ}さん（広島難病団体連絡協議会会長）

鎌倉市図書館のHPには「図書館利用がしにくい方へのサービス」という項目があります。ですが本来は「図書館利用に障害がある人たちへのサービス」ですよ、というところからお話は始まりました。利用する人の側に障害があるのではなく、図書館側に利用を阻む障害があるということです。

「図書館利用に障害がある人」というのは、いわゆる身体障害者だけではありません。図書館へ行くための交通手段のない人、病院や施設に入院、入所している人、刑務所に収監されている人などもそうです。鎌倉市図書館の先の項目の中身を見ると、朗読CDや大活字本、点字付き図書、音声読書機などがあることや、郵送サービスのことが書かれています。これらはやはり身体障害者を念頭においている表現のように見えますね。

障害者サービスは利用が少ない、と言われていました。それは行くことが困難、行っても使える資料がないことなどから、図書館に期待していないからです。求められないのなら、備える必要はないのでしょうか。

障害のあるなしにかかわらず、全ての人に知る権利、知る自由があります。これを保障することは図書館の義務です。現在の図書館の状態がその義務を果たせていないのならば、障害を取り除き（バリアフリー）、誰もが使える仕様（ユニバーサルデザイン）に変えていかなければなりません。知る権利、知る自由、すなわち人権を保障するのが図書館の使命だからです。少数の障害者に向けたサービスにとらえるのではなく、図書館にある障害をなくすことによって誰もが使いやすくなる、と考えれば良いのです。鎌倉市図書館の「ビジョン」には「市民の知る権利を守り、望む情報を得ることができる環境を保障します。」「障害のある人もない人も使いやすく。施設のユニバーサルデザイン化をすすめます。」と書かれています。この理念の具現化に向けて努力を続けていきたいと思います。

2019年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」が制定、施行されました。通称「読書バリアフリー法」です。ここでは「視覚障害者等」となっています。視覚障害者だけを指すものではありません。これにより国と自治体には関連計画の策定が課せられ、第4次鎌倉市図書館サービス計画にも「一人ひとりに合わせた資料の提供とその周知」やデジタル環境の整備等を重点事業として掲げています。読書バリアフリー法や国の基本計画には大切なことがきちんと示されているのです。

公共施設の一番の課題はトイレと空間移動です。車椅子移動を考えると、ギリギリ通れる幅ではすれ違うことも回転することもできません。講師が用意してくださった80ページに及ぶ資料には車椅子利用者の動作空間の図もあり、これまで知識のなかった私にも理解できました。計画を立てる人が障害者の現実を知らなければ、高額の設定費をかけたとしても使えないものになってしまうかもしれません。今新しい施設を作るのならば、誰もが使いやすくするのは当たり前です。わからないことは当事者や専門家に聞けば良いし、基準やガイドラインを勉強すれば、理解は深まるでしょう。

大切なのは、一人ひとりが考えることです。学ぶことの多い講演でしたが、聞いただけで終わっては状況は変わりません。講師は最後に「どうすれば誰もが「使いやすい」図書館になるでしょうか。みんな考えてね!」と話を結ばれました。

（黒瀬）



西河内靖泰さん

第4回連続講座 「他市の図書館等施設の視察報告」に参加して

講師：渡邊浩平さん（鎌倉市中央図書館総務係長）

清水順子（材木座在住）

鎌倉市の市庁舎現在地利活用基本構想で、中央図書館が御成に移転する予定を踏まえて、「これからの鎌倉の図書館にのぞむこと」連続講座が開かれ、第4回「他市の図書館等施設の視察報告」に初めて参加しました。渡邊さんのお話は、本好きの利用者としての視線もあり、とても分かりやすかったです。

まずは、福島県須賀川市民交流センター tette（どうしてこの名前なのかは知りたかった）は、図書館機能の他、NPO センターも入っていて、市民が自由に活動できる広い集会室もあり、立派な4階建てです。傾斜地を利用して、1階ロビーは緩やかな坂になっています。建設費は、復興支援金を使って何と77億円！とのこと。

福島県白河市立図書館りぶらんは、駅前にあり、利用者と職員の動線が完全に分離していることが特色です。深いひさしを持つ、勾配屋根が美しいデザインです。

那須塩原市図書館みるるは黒磯駅前にあり、2階まで吹き抜けで、よく話題になる建物です。交流スペースは多くの中高生が利用していたそうです。

市庁舎等整備計画で、市議会場も深沢に移転する予定なので、横浜市会図書室も視察されたそうです。ここは市民も閲覧することはできますが、主たる目的は市議の日々の活動に役立てることです。そのために必要な書籍が揃えられています。

そしていよいよよく話題に上る、武蔵野プレイスと大和シリウスです。ここが取り上げられると思い、私は予習を兼ねて2か所を事前に訪れてみましたので、勝手ですが以下私の感想です。



武蔵野プレイス

武蔵野プレイスは、武蔵境駅前に建つ、曲線を活かした特徴的な4階建ての建物です。前の広場は、舗装されていない土の円形で、イベントなどに使われるようです。建物内部は落ち着いた雰囲気、市民活動の集会室や青少年達が活動できるスペースも、又おしゃれなカフェもあります。

大和シリウスは、見学者も多い人気の施設です。とにかく大きい、広い。保育園さながらの幼児が遊べるスペースから、若者が集える居場所から、もちろん図書館機能も、そして大和市が力を入れている健康コーナーまで、至れり尽くせりです。

後半は、中央図書館司書の中田さんに館内をくまなく案内していただきました。限られた館内を有効に使うため、事務室と閲覧室を交換したり、苦勞されているのがよくわかりました。何と言っても私が強い印象を持ったのは、地下室の11万冊の本です。やはり本を選ぶ際、手に取ってページを繰ってから、と思うのは私だけでしょうか。鎌倉の図書館ともあろうものが、いかにも狭い。貴重な資料がわんさどあるのに、専門的な職員が少なく、スペースが狭いせいで、市民に提供できていないのではないのでしょうか。

御成に移転の際には、まずは十分なスペースを確保して欲しいと切望します。



連続講座第一回の講師である森下さんが参加され、第 5 回連続講座の講演要旨をまとめて下さいました。北ヨーロッパと日本の図書館を様々に比較することで、鎌倉らしい図書館の姿がより一層明確になってきました。

第5回連続講座「北ヨーロッパにおける公共図書館の意義と役割」講演要旨

講師：吉田^{よしだ}右子^{ゆうこ}さん（筑波大学図書館情報系メディア系）



吉田右子さん

森下芳則（元愛知県田原市図書館長）

1 公共図書館のあり方は世界中でほぼ同じ、図書館は普遍的な存在

公共図書館は最初にボストンででき、多くの国がアメリカの図書館を見習って作っていった。どこに行っても同じような公共図書館があり、ほぼ同じシステム。

デンマークに行って驚いたのは、図書館でみんなが自分のしたいようにしていること。

2 図書館でしかおこなえない二つの機能

図書館の写真を見ていただくのだが、実にいろんなことをしている。いろんなことをやりすぎて、一体図書館って何をやるどころかわからなくなってしまう。

図書館って一体どういうところか、図書館のコアなところとして、「文化保障機関」というのが図書館の中核になる理念だと思う。「文化保障機関」になるためには二つの機能が必要。ひとつは生涯学習の支援、それと情報、メディアと文化、知識など諸々へのアクセスの保障。この二つをセットで行えるのは図書館以外にはない。

この土台の上にはいろいろなことができる。いまよく言われていることとして自律的な学び、創造的対話、コミュニティ構築、社会的包摂、文化的多様性などがある。図書館はいろんなことができすぎるので、図書館の土台である二つの機能を忘れると、図書館でなくてもできることを図書館がやってしまうということがある。

3 日本にある二つの生涯学習施設、図書館と公民館

公民館は日本にしかない。日本から見ると、外国の図書館はたまり場という公民館の機能も果たしている。図書館に来て議論をしようということが図書館の目標になっている。

4 オープンライブラリー

北欧では基本夜間開館はしていない。デンマークで、健康保険カードと暗証番号でいつでも自由に入館できるオープンライブラリーが始まり、現在では近隣各国にも普及。

5 文書館

郷土資料や公文書などは文書館で収集保管し、図書館は本という役割分担がされている。

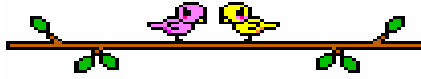
6 本は特別なメディア

本は無くなる、無くなると言われてきたが、人は本を読む。本は無くならない。

7 北欧諸国の図書館法は対話を通して学ぶことが根本理念、図書館は文化的格差をなくす。

ノルウェー公共図書館法（2013 年） 第 1 条 図書館の目的

- ① 公共図書館は、図書やその他のメディアをすべての住民に無料で提供することによって、知識、教育、その他の文化活動を積極的に推進する。
- ② 公共図書館は公共性を持つ会話と議論のための独立した出会いの場、活動の場である。



連続講座アンケートに寄せられたご感想・ご意見など

第3回 5月28日

第4回 6月25日

第5回 7月9日

障害者を基準にした図書館施設は、全ての市民に使い易い施設になるという、壁のない考え方に改めて気づきました。まちづくりの視点も変わる必要があると感じました。弱者を中心にした社会を政治がすすめて欲しいですね。深沢図書館の移転に上手な障害者対応が具現化されるよう市民の活動が重要です。 第3回

資料がとても充実していて有難い。普段、図書館の一利用者として、健常者として気付いていなかった視点への気づきを頂きました。障害は人ではなく、施設の側にあるという点については、私自身の考えとしても100%同意します。社会全体にその考えがもっと浸透してほしいと思います。 第3回

障害者の視点、当事者の目線と自分が思っていたものが、大きくかけ離れていたことに驚きました。障害者の定義が、広義に渡ることも、新たな発見でした。これからの図書館が、全ての人に使い易い場所になることを望みます。 第3回

西河内先生の体験から語られる問題点がわかりやすくて良かったです。 第3回

基本の考え方を学びました。challenged people だけではなく、みんなが使いやすいということ。 第3回

岐阜市立図書館中央館がとても印象に残っています。
人口 402,557、世帯数 173,032 と鎌倉市がそのまま取り入れることは不可能ですが、考え方は最大限取り入れるという姿勢が必要です。
渡邊さんががんばってください。 第4回

指定管理が増えていることを実感。便利さや用途の多様さ等の利点を考えると同時に、図書館の本来の存在意義と市民の望むことのバランス？あるいは“使い易い図書館”とは一体どんな図書館を指すのか？というようなことを考えながら拝聴いたしました。 第4回

「他市の図書館等施設の視察報告」
今回は施設の話が中心ですが、その中で図書館運営はどうだったのかが聞きたかったです。
「図書館見学」
たくさんの場所を見せていただきありがとうございました。学習室を含めやはり市民が利用できる場所がせまいと思いました。 第4回

中田さんの館内巡回の企画はとても楽しかったです。貴重な資料の存在を知り、図書館への興味が更にわきました。 第4回

図書館職員の方の立場から見た各図書館のお話は、とても興味深かったです。 第4回

大きなテーマという印象でしたが、先生のお話がわかりやすくおもしろくて、どんどん興味深くなり身近なテーマとして考えるきっかけになりました(図書館が大好きな場所なので)。日本の未来の図書館がどんな風になっていくのか楽しみです。 第5回

北欧州と日本の違いにびっくりしました。すべてが日本であてはまるとは思いませんが、良い所を取り入れて、地域に合った図書館作りを、鎌倉で行っていただけることを期待したいです。 第5回

北ヨーロッパの公共図書館のお話、とても興味深く伺いました。読書離れが進んでいることを憂うばかりでなく、次の一手を打つことのヒントをたくさんいただいたように感じています。 第5回

吉田先生のお話、新鮮で目から鱗でした。私個人としては先生の言葉を借りれば「変わった人」なので、周りがうるさいと集中できません。「静寂室」があると聞き安心しました。
貴重本の収納庫や、地下収蔵室にも案内していただき、とても充実した時間を過ごせました。お礼を申し上げます。 第5回

バナナが食べられる図書館の話におどろきでした。いまどの世代にとっても第3回の居場所が求められています。大人も子どもも家、職場(学校)、もう1つの居場所。図書館がその役割をはたしてくれることも期待がふくらむお話でした。とても良い機会を得られてよかったです。 第5回



*第3回～第5回連続講座は各回とも中央図書館多目的室で行われました。

市庁舎移転で図書館は規模縮小、サービス低下かー5・10 出前講座報告ー

5月10日に福祉センターで行われた市役所出前講座について報告します。市庁舎移転に伴って図書館がどうなるか市の考え方や進行状況を聞きたいということでTOTOMOが市に申し込んで開かれたものです。市からは市街地整備課(3名)、地域のつながり課(1名)、文化財課(1名)、中央図書館長、館長補佐が出席され、TOTOMOからは8名、NPOセンターにも呼び掛けて2名が出席されました。

最初に市街地整備課から市庁舎移転の概要がスライドで説明され、その後質疑に入りました。2時間にわたる議論をすべて紹介はできないので、ポイントを絞って報告します。

現段階で一番気になるのは図書館の規模についてです。新庁舎に入る深沢図書館は現在の820㎡から530㎡に縮小(35%減)されることになっています。深沢図書館は子ども読書推進の拠点で全市域の小学校、幼稚園などを対象にした団体貸出用の児童書を所蔵し提供しています。いまは地下書庫にそのための専用書架、作業スペースが確保されていますが、3割以上も縮小されるとそのサービスが不可能になると考え、「計画では学習センターとの仕切りをなくし共用スペースをつくるとあるが、それに対応できるのか」と聞いたところ、「縦割り行政の弊害を無くすというコンセプトで設計されている」というピント外れの答えが返ってきました。図書館と生涯学習センターとの間に区切りを設けると縦割り行政になるという論理自体が理解不能なのですが、それ以前に深沢図書館がどんなサービスをしていて、そのためにどういう造りになっているのかという現状さえきちんと把握しないでつくられた杜撰な計画だと言わざるをえません。

次に現庁舎が移転した跡地に中央図書館と生涯学習センターが移転するという基本構想についてですが、未だ現庁舎を活用するのか、新しく建て替えるのか決まっていないという説明でした。これについても「現中央図書館の2576㎡という延べ床面積ではとても足りない、人口17万人という規模の都市であれば4000～5000㎡の広さが欲しい」と述べたところ、「それは無理だ」とここだけは明確に回答されました。現庁舎を活用するのか新築にするのかさえ決まっておらず、図書館と生涯学習センターをどのようにレイアウトするのも不明の段階で、規模だけは決まっているという回答はこれまた不可解です。市庁舎移転の説明のスライドでは現中央図書館の老朽化(建てられてから約50年経っています)、バリアフリー対応不足、閲覧席不足、学習スペースなしなどの課題が示されています。そのためには書架間隔を広げる、対面音読室を新たに設ける、読書したり調べ物をするスペースを拡充するなどのことが必要なはずですが、それなのに規模だけが変わらないというのは全く説得力がありません。

このような問題の背景には公共施設を減らす、あるいは複合化し規模を縮小するという市の公共施設再編計画の考え方があると思われますが、「計画変更の余地は全くないというわけではない、市民との対話は必要と考えている」との説明があったので、これからの鎌倉の図書館はこうあるべきという考えをまとめ今後も市への働きかけをしていきたいと考えています。

(和田)

TOTOMO 会員の五十嵐廣雄さんが本年三月末にお亡くなりになりました 謹んでお悔やみ申し上げます

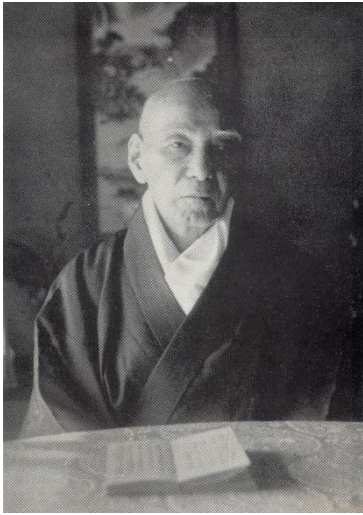
五十嵐廣雄さんの訃報を知り、惜別の念に堪えません。以前から体調を悪くされていると伺っていましたが、いざ亡くなられたと聞くと残念でなりません。五十嵐さんとは私が川崎の図書館で働くようになって以来のお付き合いです。私にとって五十嵐さんは先輩というより気の合う仲間という感じで、TOTOMO で再会してからも9歳上なのに、ため口で話をし、五十嵐さんの人柄の良さに甘えさせてもらっていました。理屈を言うより真面目にコツコツと仕事をするタイプの方で、特に郷土資料の収集、整理に力を入れていました。退職後も自分が住む町の歴史を調べるために地元
の図書館に足繁く通っておられました。このように言うと失礼になりますが、五十嵐さんは私にとって得がたい友人のような存在でした。改めて五十嵐さんのご冥福を祈り、お別れの言葉といたします。

(和田)

松坡先生をめぐる人々 13 島田日雅

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一

篆額・撰文・書など松坡先生がかかわった碑は数多くありますが、先生の漢詩碑は思いのほか少なく、箱根底倉八千代橋脇の「箱根新道碑」と鎌倉妙本寺の漢詩碑の二基が確認できるだけです。妙本寺の松坡漢詩碑は島田日雅上人（1881～1966）の尽力によるものでした。



島田日雅上人
（『日雅上人傳 日雅上人逸事』より）

島田日雅（字は勝存^{かつあり}）は上総夷隅郡日蓮宗徳性寺住持の子として生まれ、父が池上本門寺執事となるに随って上京、11歳で得度、中檀林で学びました。修学後、田中智学の本化宗学研究大会（1903.4～1904.4）に参加し、一時智学の鎌倉要山師子王文

庫に入ります。同じような経歴の片野晃陽（連載第3回）と松坡先生の交友が明治38（1905）年頃から始まっていますから、松坡先生と日雅上人との交友は晃陽や智学を通じてその頃から始まったと思われます。日雅上人は下総流山常興寺住持を経て、大正2（1913）年には妙本寺（本行院）住持となり全山を統監する司務職を兼ねるに至りました。上人と親しかった柳齋塚本省^{あきら}（1879～1966 本名松之助）の『日雅上人傳 日雅上人逸事』（増補版非売品 1968）には上人の妙本寺晋山を祝って松坡先生が詠じた詩が紹介されています。転句・結句には、

舌鋒磨礪降魔劍 妙法鎌山第一城

舌鋒磨礪^{まれい}す 降魔の劍

妙法鎌山 第一の城

とあり、上人の鋭い弁舌によって妙本寺が鎌倉

第一の寺たることが詠じられています。

松坡先生と日雅上人は酒席を共にもしています。晃陽に智学の眼病快癒祝いの宴席の折の詩があり、長いタイトルが付されています。読み下して一部を紹介します。「田中巴雷先生眼を患い、鎌倉大林国手の治を受くること数十旬にして殆ど快明を得、将に一江に還らんとす。一夕、宴を要山香風園に張り、田邊翁・向山博士・大林国手・島田横山両師及予が招かる。特に児女をして国性の舞踊を演ぜしめ、以て興の助とす」とあります。「島田横山両師」とある「島田」が日雅上人、「横山」は光則寺住職の横山仁秀^{にんしゅう}師です。上述の『日雅上人傳 日雅上人逸事』には、上人は汎交（だれとでも交際すること）は好まなかったが、石交（破れることのない堅い友情で結ばれた）数人がいたと記され、晃陽と横山仁秀の名も挙げられています。日雅・晃陽・仁秀は日蓮宗「三羽がらす」と称えられたともいいます。

妙本寺祖師堂前の立派な海棠を詠んだ詩歌がないのを嘆いて松坡先生に漢詩を委嘱したのが日雅上人でした。「海棠花下吟（海棠の花の下にて吟ず）」と題された七言絶句ができ、それを刻んだ詩碑の竣成式が举行されたのは昭和13（1938）年10月20日。「午前十時半小雨降る中に一同碑前に参集、住持の讀經により式を畢り樹傍に於て撮影」との記録があります（『漢詩春秋』第22巻第11号 1938.11.1）。午餐の後、参集した松社同人により聯句が読まれ箋上に記され、後に詩軸に仕立てられました。

漢詩碑は祖師堂に向って右手前の植え込みに立っています。同人17人と「東水」号の日雅上人計18人による聯句が書かれた詩軸は妙本寺が所蔵しており、碑・詩軸は松坡先生と日雅上人の友情の証ということになります。



図書館友の会全国連絡会総会に参加しました

(5月29日 於：日本図書館協会)

5月29日(月)、図書館友の会全国連絡会(以下図友連)の総会が開催され、5人の仲間たちと共に参加しました。2020～2022年の3年間は書面総会とし、メールや郵送で対処していたため、対面での総会は4年ぶりとなります。さらに今回は初の試みとして、当日会場に来られない人たちのためにzoomでの同時配信も行われました。

図友連は現在団体会員65、個人会員117で合計182からなっています。総会への参加は17団体12個人、委任状87、合計116でした。zoomでの参加者には議決権がありませんでした。活動報告、活動方針案等が提示され、いずれも承認されました。

活動報告では、集会が開催しづらい中で苦勞する一方、MLやzoomを利用した交流など、全国に会員のいるこの会では有効な手段を見出した一面も伺えました。また、テーマ別プロジェクト班のひとつの活動として「ユネスコ公共図書館宣言2022」図友連訳について提案と説明もあり、精力的な取り組みに頼もしく思いました。

会場からは、この5月に発刊した『ツタヤ図書館の広がりは何をもたらしたか？市民がふりかえる10年』の増刷が提案され、了承されました。また、事務局への負担が増していることへの懸念も示されましたが、運営委員の固定化は引き続きの課題です。

数年ぶりに顔を合わせた方や実際にお会いするのは初めての方とも嬉しく挨拶したあとはすぐにそれぞれの地域の課題に話は及び、得ることの多い日となりました。ただ、議事が多く時間が限られていたために交流会の時間がとれず、全体での情報交換ができなかったことは残念でした。(黒瀬)

図友連シンポジウム報告

公共図書館はどう伝えられているか～新聞ジャーナリズムと市民～

(5月29日 於：日本図書館協会)

基調講演 藤生 京子氏(朝日新聞文化部記者)の講演は以下の通りです。

【『個』を鍛え、連帯する場所―「みんなの図書館」への挑戦―取材で立ち止まり、考え、勇気づけられたこととしてお話する。

公共図書館についての取材は4年くらいであり、きっかけは映画「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」を見たことである。延べ20人以上の関係者取材から見えてきたものは、当たり前に見える図書館の風景がより開かれた「みんな」の図書館をめざす挑戦の上に実現したこと。

取材を始め、生半可な気持ちで取材してはいけないテーマだと気づいた。取材した中で特に注目したうちの1つに鳥取県立図書館がある。1990年代の初め、のちに知事となった方が総務部長時代に県立図書館の予算面の充実に取り組み、知事になってからは県の行政の中で図書館を明確に民主主義の砦と位置付けた。トップが明確な方針を出すことによって職員の意識もかわり、図書館員がいきいきと自信をもっていることは印象的であった。

記者として「本の世界の深い森」を伝えたい。「ゆっくり読み、多角的に、深く考える」図書館は、思考のための手がかりとして大切な場所だ。】

基調講演に引き続き、藤生京子氏・嶋田学氏・蓑田明子氏・阿曾千代子氏によるパネルディスカッション、質疑応答が行われた。講演をとおして、図書館の重要性を強く意識し取材を続け発信して下さる藤生記者がいらっしゃることに強い味方を得た思いである。（古矢）

図書館友の会全国連絡会 要請活動報告

シンポジウムと総会を終えた翌5月30日から6月1日まで、延べ20名の図書館友の会全国連絡会メンバーが国への要請を行いました。昨年9月に総務省、文科省の各副大臣に要望書を手交しましたが、今回はその後の進捗状況を問う質問書を持参し、両省庁の事務方と面談しました（添付資料②）。

- ・総務省対応者 3名：自治行政局行政経営支援室／同局公務員部公務員課
- ・文部科学省対応者 6名：総合教育政策局地域学習振興課図書館・学校図書館振興室／同局男女共同参画共生社会学習・安全課・障害者学習支援推進室

同時に、グループに分かれて、衆議院文部科学委員会、参議院文教科学委員会、活字文化議員連盟に所属する125名の議員を国会事務所に訪ね、3300を超す全国の公共図書館の厳しい現状を訴え、環境整備の拡充にむけた支援をお願いしました。（阿曾）

活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 合同総会傍聴報告

続く6月15日、超党派議員で組織される活字文化議員連盟と学校図書館議員連盟の緊急合同総会が参議院会館で開かれ3名のTOTOMOメンバーが傍聴参加しました。そこでは図書館司書・学校司書の抜本的な処遇改革を促進することを求める要望書が採択され、意見交換後、各議連の方針が決議されました（添付資料③）。

参加者210名の熱気に包まれた本集会の詳細は、(公財)文字・活字文化推進機構HPに掲載されていますのでご参照ください。

<https://www.mojikatsuji.or.jp/news/2023/06/16/6772/>

なお、上記要望書の作成には図書館友の会全国連絡会の公共図書館プロジェクト班も長年にわたって協力してきましたので、ようやくここまで進められたとの感があります。引き続き、国会質疑や担当省庁の取組みなど、今後の推移に注目していきたいと思います。（阿曾）



第2回ファンタスティック☆ライブラリー112実行委員会報告

6月22日(木) 於：鎌倉市中央図書館

第2回実行委員会が、図書館員3名、かまくら女性史の会1名、TOTOMO3名の参加で行われ、現在までに決まっている各団体企画の提案がありました。

今回の実行委員会で講演会やコンサートなどの時間、展示場所について話し合います。展示に使う展示パネルは1階に2台、3階に3台、ガラスケースは1階に2台、3階に6台あり、階をまたいで動かすことは難しいとのこと。ほかにコロナ禍で仕切りに利用していたアクリルボードがパネル展示に使えるそうです。広報については、まず「図書館だより」で告知し、7月11日～17日に行われる図書館の地下道ギャラリー展でもお知らせします。

今回の実行委員会は10月12日(木)14時～15時半、中央図書館多目的室で行います。TOTOMOから、阿部(松坡文庫研究会兼務)、水岡、杉崎が参加しました。(杉崎)

かまくら女性史の会: 戦中戦後の幼児教育について
パネル展示と講演、大船撮影所で働いた女性について朗読と映画音楽のレコードコンサート

おはなしひろば: 「世界のおはなし」をテーマにパネル展示、おはなし会、絵本でカルタ

TOTOMO: TOTOMOが保存している作家さんのイラスト等の原画展

間島弟彦・間島愛子夫妻施徳の会: パネル展示、関連本・寄贈本の展示、間島家の寄贈本とゆかりの人々について講演、間島家を偲ぶ館内コンサート

松坡文庫研究会: 松坡と鎌倉のお寺についてパネル展示と講演、松坡文庫のお宝展示

本ノ海サポーターズ交流会参加報告

6月16日(金) 深沢学習センターにて

「紙芝居はなぜ楽しい? 紙芝居を広める活動と実演」と題し、紙芝居・絵本作家の長野ヒデ子さんと紙芝居文化推進協議会(以下、紙文協)の杉山恵子さんのお話をうかがいました。

長野さんは、絵本と紙芝居はまったく違うもので、作家の名前のところに、脚本と書かれていることから紙芝居は演じるもの、舞台があるもので、絵の抜き方で表現ができるものと教えてくださいました。実際に『くわす女房』の一部を演じてくださり、紙芝居の迫力を感じました。紙文協から参加された方が演じられた『あぶくたつた にえたつた』では、大根を切る場面やお鍋のふたを見せる場面など紙芝居ならではの演じ方のアドバイスがありました。

杉山さんは、紙文協の成り立ちや現在も続いている「手づくり紙芝居コンクール」についてお話してくださいました。紙文協では、コンクールのほかにも、紙芝居手づくり講座や21世紀かみしばい学校、出張講演、毎月の勉強会、情報誌の発行などを行い、紙芝居を広める活動をされているそうです。

紙芝居は日本独自の文化で、海外でも称賛されています。デジタル化が進み効率化ばかりが進む現代だからこそ、子どもたちと紙芝居を楽しむ時間を大切にしたいと思いました。

最後は、この日参加した約50名を8つのグループに分けて、グループディスカッションをしました。私の参加したグループでは、海外で暮らすお孫さんにリモートで紙芝居や絵本を読んでいる方や、ご自身で人形劇団をつくり、そこで手作り紙芝居を演じている方がいらして、刺激を受けました。

久しぶりにお会いした方とも近況を交換でき、充実した交流会となりました。(杉崎)

.....

かまくら銀幕上映会のお知らせ(主催: ドリーム・アーツ(03-5969-8081) 於: 鎌倉芸術館小ホール

8/9(水) 『ホイットニー・ヒューストン I WANNA DANCE』

8/28(月) 『モリコーネ 映画が恋した音楽家』 9/19(火) 『エンドロールのつづき』

◎前売り券: 1000円(当日券: 1300円) * 受付で「田邊さんから聞いた」と仰っていただければ前売り料金でご覧いただけます。

◎上映時間①11:00～ ②14:00～ ☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館(0467-48-5500)へお問い合わせください



ボランティア連絡協議会報告

6月15日（木）午前中、委員会に続いてミニ研修会を行いました。今回は認知症サポーター養成講座ステップアップ講座として、メンタルホスピタルかまくら山から地域医療連携室長の山田氏と看護部長の阿部氏を講師にお迎えしてお話を伺いました。認知症とはどんな病気なのか、家族や周囲はどのように接したらよいのか、具体的な事例をあげながらのお話はとてもわかりやすく、勉強になりました。メンタルホスピタルかまくら山さんのHPにも記事が掲載されていますので、併せてご覧ください。<http://mh-kamakura.com/blog/2023-06-15.html>

認知症予防&改善に役立つミニ情報！

会話：80～321分

運動：最低3276歩 できれば7791歩

睡眠：353～434分（6～7時間）

※1日の目安です。

7月13日（木）の役員会では、27日（木）のボランティアクラブや9月の福祉まつり等について具体的な打ち合わせを行いました。また、今年もボランティアクラブが中心になって鶴岡八幡宮の七夕飾り制作に取り組みましたが、来年に向けての課題等も話し合いました。

9月3日（日）には4年ぶりに福祉まつりを開催します。バザーや模擬店も復活します。ぜひお立ち寄りください。（黒瀬）



協働事業推進部会報告

6月25日（土）午前中に令和4年度つながる鎌倉エール事業スタートアップコースに選ばれた3団体の報告会が実施されました。同日午後、令和5年度同事業スタートアップコースの審査会が行われ、応募した3事業中2事業が採択されました。

一方、協働コースについては、現在5団体7事業が応募申請しています。こちらの公開審査会は9月下旬から10月下旬に実施される予定です。詳細が決まり次第鎌倉市HPで公表されますので、ご注目ください。<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/npo/sougo28.html>

いずれも興味深い事業ですので、当部会としては実施に向けてどのようなサポートができるのか模索しているところです。（黒瀬）

TOTOMO活動日誌（6/1～7/26）

6/7	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会	7/7	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会 ^パ 祢制作
6/8	ボランティア連絡協議会役員会出席	7/9	連続講座第5回吉田右子氏講演会
6/15	おはなしひこうせん勉強会	7/11	本庁舎等整備委員会傍聴
6/15	ボランティア連絡協議会委員会、研修会出席	7/13	ボランティア連絡協議会役員会出席
6/15	活字文化議連・学校図書館議連の緊急合同総会参加	7/13	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会 ^パ 祢制作
6/16	本の海サポーターズ交流会参加	7/14	協働事業推進部会出席
6/22	F☆L実行委員会出席	7/20	おはなしひこうせん勉強会
6/23	読書会	7/20～24	青山学院校友会作品展で間島の会 ^パ 祢展示
6/25	連続講座第4回渡邊浩平氏講演会		
7/2	ととも朗読会		
7/6	ユニリーフお手伝い		

ロビー活動 随時

臨時打ち合わせ3回（7/11, 18, 21）

定例会8回（6/7, 14, 21, 28, 7/5, 12, 19, 26）

TOTOMO COMING NEXT! 事務局からのお知らせ



この夏も猛暑が始まりました。バランスの取れた食事と睡眠を十分とって夏を乗り切りましょう。避暑には、図書館で読書はいかがでしょう。

おはなしひこうせん勉強会

日 時：9月21日（木）10時～12時 場 所：福祉センター
テーマ：「世界のおはなし」今年度ファンタスティック☆ライブラリーのテーマです。
世界各地の昔話・民話・童話の絵本や紙芝居をご紹介します。
※9月29日に予定している西鎌子育てサロンぽっけでのおはなし会の打ち合わせもします。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読書会

日 時：9月22日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉
テーマ本：寺地はるな著『カレーの時間』（実業之日本社）と石垣りん著『朝のひかり』（中公文庫）と豊田恭子著『闘う図書館』（筑摩書房）です。夏休みを挟み、前回の読書会から3か月ありますので、テーマ本は三冊となりました。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：8月2日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉
お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

図書館協議会

日 時：8月1日（火）9時半～11時半 場 所：鎌倉市中央図書館3階多目的室
傍聴を希望する方は中央図書館まで。開館時間中に電話（0467-25-2611）か、カウンターでお申し込みください。

福祉まつり

日 時：9月3日（日）10時～14時 場 所：鎌倉市福祉センター
模擬店やバザー、パフォーマンスが行われます。
* 当日および8月23日、24日のお手伝いを募集しています。詳しくは事務局までお問合せください。

☆図書館友の会全国連絡会

『ツタヤ図書館の広がりは何をもたらしたか？市民がふりかえる10年』が2000冊増刷され希望者に配布中（送料負担）です。
11月16～17日、4年ぶりに対面形式で実施される第109回全国図書館大会岩手大会への分科会参加の準備を進めています。お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。



編集後記 * * * * *

☆毎年、夏休みは各地で絵本の原画展が開催されます。鎌倉芸術館では、西巻茅子さんの原画展（8/4～8/13）があります。本物と出会うチャンスを大事にしたいと思います。（A.S）
☆5回にわたって開催された連続講座が盛況のうちに幕を閉じました。これをどう活かしていくかが、今後の課題でしょうか。（M.S）

題字・巻末カット：小島寅雄 2023年7月26日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子） 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

